



13 気候変動に
具体的な対策を

14 海の豊かさを
守ろう

15 陸の豊かさも
守ろう

「SICA 地域における生物多様性の統合的管理と保全に関する能力強化プロジェクト」は中米・カリブ海の8か国（ベリーズ、グアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア、コスタリカ、パナマ、およびドミニカ共和国）から構成される中米統合機構（SICA）・中米環境開発委員会（CCAD）をカウンターパートとして、2019年3月から2024年3月まで5年間に渡り実施されました。プロジェクトニュースレター最終号では中米・カリブ海の生物多様性を改めて再確認したいと思います。

中米・カリブ海の生物多様性

北米大陸と南米大陸を結ぶ中米・カリブ海は、日本の九州と四国を合わせた程の狭い地域でありながら多種多様な動植物が生息しています¹。生物多様性が高い一方で、人間活動による破壊の危機に瀕している地域を「生物多様性ホットスポット」と呼んでいます。この概念を提唱したオックスフォード大学のノーマン・マイヤーズ博士によると、存在する維管束植物（維管束と呼ばれる通道組織を有するシダ植物や種子植物の総称）の内、1,500種がその土地固有のもの、かつ人間活動の影響を受けてこなかった原生的植生のうち7割以上が既に破壊されている地域を指します²。現在、全世界に36の生物多様性ホットスポットがあり、そのうち中米・カリブ海には「メソアメリカ（メキシコ中央部からパナマ運河までの亜熱帯・熱帯地域）」³と「カリブ海諸島」の2つがあります（図1、2）。なお、日本もその一つとして指定されています⁴。

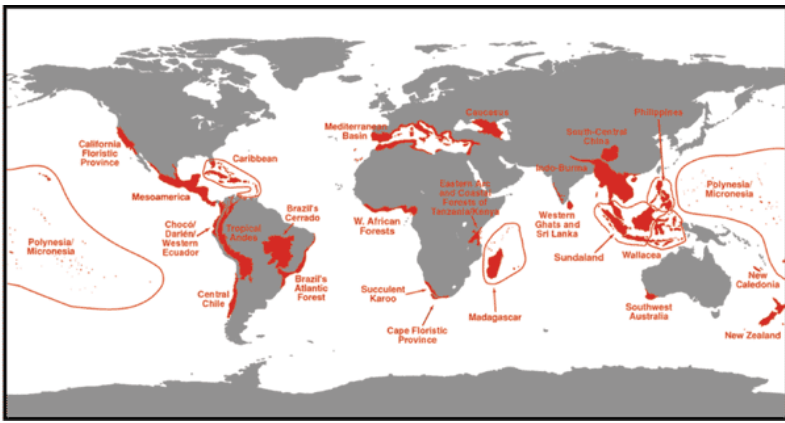


図1. ノーマン・マイヤーズが2000年に提唱した世界25の生物多様性ホットスポット²
注：後に日本などが追加され36ホットスポットに見直し
出典：Myers, N. et al. (2000). Biodiversity hotspots for conservation priorities. *Nature* 403, 853-858.



図2. 生物多様性ホットスポット「メソアメリカ」および「カリブ海諸島」
出典：“Hotspots Revisited”, Conservation International 2004

「メソアメリカ」は、世界中のホットスポットの中でブラジルのセラード（35.7万km²）、南米7カ国に跨る熱帯アンデス（31.5万km²）に続いて3番目の広さ（23.1万km²）を誇ります^{2,3}。乾燥林、低地湿地林、山地林が混在し、複雑な生態系を形成しており、太平洋岸沿いに続く沿岸湿地とマングローブ林から、広葉樹林、高地の針葉樹林まで様々です。メソアメリカにはおよそ5,000種の固有植物、1,159種の固有の脊椎動物（世界のホットスポットの中でも特に多い）が確認されており、地球の生物多様性の8%が存在すると言われていています²。そこには鮮やかな色彩を持つ鳥ケツアール（*Pharomachrus mocinno*）や、熱帯林に生息する霊長類のホエザル（*Alouatta palliata*）などで象徴される固有種に加え、渡り鳥にとっても重要な生息地となっています。一方で農牧地転換のための森林伐採、気候変動の影響などによって急激にその生息地が破壊されています⁵。ホットスポット「メソアメリカ」の総面積23.1万km²の内、2000年の時点で59.9%が保護区に指定されているものの、過去に遡ると、森林面積は1950年から2002年の間に60%も減少しています^{2,5}（図3）。メソアメリカには63もの先住民が住んでおり、保護区の多くは先住民居住区となっています⁵。先住民の伝統的知識は森林・生物多様性保全において大事な役割を果たしていると考えられます。

「カリブ海諸島」も同様に、熱帯湿地林やマングローブ林から乾性低木林など多様な生態系があり、「メソアメリカ」を上回る7,000種もの固有植物が確認されています²。しかしながら森林伐採のなど破壊の脅威に晒されており、12種の絶滅危惧種が指定されています⁴。

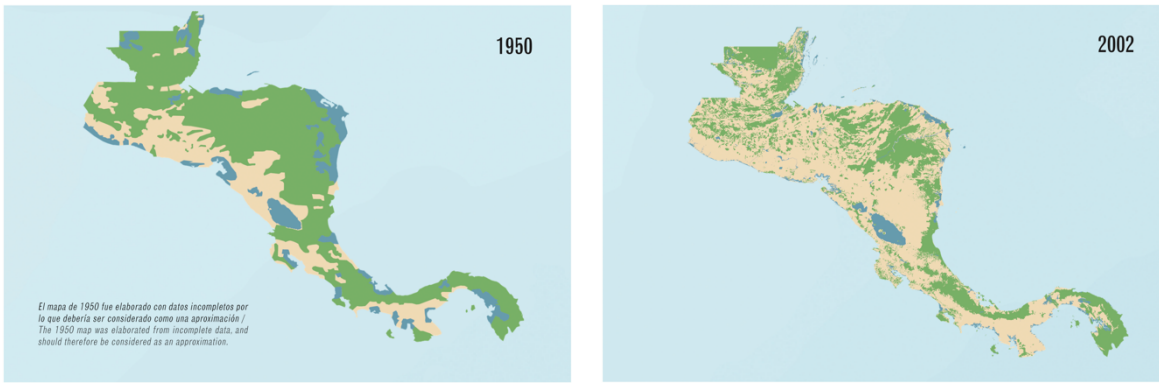


図 3. 1950 年から 2002 年までの森林面積の変化

出典：IUCN (2016). Mapeo de Pueblos Indígenas, Áreas Protegidas y Ecosistemas Naturales en Centroamérica. UICN México, América Central y el Caribe, San José, Costa Rica.

メソアメリカの熱帯雨林破壊

熱帯雨林と言えば南米のアマゾンが有名ですが、メキシコ南部からパナマにかけてメソアメリカの熱帯雨林が広がっています。その大部分は地形の変化に富み、生物多様性が豊かな土地にあります。メソアメリカの熱帯雨林に人間が定住するようになったのは何世紀も前のことで、マヤなどの古代文明とトウモロコシの農耕文化を育み、独自の景観を形成してきました。スペインによる植民地時代を経て、熱帯資源のグローバル化によって、人間活動の影響は拡大する一方です。図3のように森林面積の大部分が消失しています。この劇的な変化によって、メソアメリカの熱帯雨林は世界でも最も喫緊に保全すべき優先事項の一つとなっています。^{3,6}

今日のメソアメリカにおける熱帯雨林破壊の主な原因は、森林を伐採し牧草地にすることにあります⁶。大規模な熱帯雨林が伐採されると、養分の乏しい熱帯土壌はすぐに侵食されてしまいます。その結果、新たな土地を求めて森林伐採が拡大し、熱帯雨林が広範囲にわたって破壊されることとなります。メソアメリカにおける牧畜は、歴史的に牛肉消費という国際的なつながりが動機となっていました。1950年代から1970年代にかけてアメリカでファストフードが台頭し、手頃な価格の牛肉への需要が高まったことで、当時アメリカにとって牛肉の重要な供給源であったメソアメリカ諸国での森林破壊が加速化しました。アメリカのハンバーガーと熱帯雨林伐採の関係は、「ハンバーガー・コネクション」として知られるようになりました。現在、アメリカの牛肉食費は国内生産とカナダ、ニュージーランド、オーストラリアからの輸入に依存しているため、メソアメリカ諸国とアメリカのハンバーガー・コネクションはほとんど失われています。2000年代初頭から、麻薬密売がメソアメリカの熱帯雨林破壊の一因となってきました。これは麻薬密売の利益を合法化するために、牧畜業をマネーロンダリングの手段として利用されてきたためと言われています。⁶

出典：

¹ UNEP-WCMC (2016). The State of Biodiversity in Latin America and the Caribbean: A mid-term review of progress towards the Aichi Biodiversity Targets. UNEP-WCMC, Cambridge, UK.

² Myers, N. et al. (2000). Biodiversity hotspots for conservation priorities. *Nature* 403, 853–858.

³ De Albuquerque et al. (2015). Supporting underrepresented forests in Mesoamerica. *Natureza & Conservação* 13(2). 152-158.

⁴ Conservation International Japan. Biodiversity Hotspots. <https://www.conservation.org/japan/biodiversity-hotspots>

⁵ IUCN (2016). Mapeo de Pueblos Indígenas, Áreas Protegidas y Ecosistemas Naturales en Centroamérica. UICN México, América Central y el Caribe, San José, Costa Rica.

⁶ Gregorio, A et al. (2023). Tropical Deforestation and the Rights of Nature and Indigenous People. *World Geographies: A Critical Introduction*. 9.5. LibreTexts.

参考リンク：

JICA 国際協力機構 『プロジェクトページ』

https://www.jica.go.jp/project/all_c_america/005/index.html

JICA 国際協力機構 『ODA 見える化サイト』

<https://www.jica.go.jp/oda/project/1701704/index.html>

SICA 中米統合機構 『OAR (地域環境プラットフォーム)』 (スペイン語)

<https://www.sica.int/oar/mares/inicio>

執筆：

JICA/SICA (中米統合機構) 生物多様性保全プロジェクト専門家

博士 (森林生態学) 稲川 武

t.inagawa@gmail.com